

Daichikyo News

大地協ニュース

大地協ニュース復刊 第23号

発行元：NPO 法人 大阪市地域福祉施設協議会

企画委員会《 広報宣伝部 》

発行日：2024 年 6 月 第 23 号

担当窓口：望之門保育園 佐伯 剛

TEL 6651-7741

Fax 6652-8841

大地協の最新☆情報は右記 →

QRコードをご覧ください。



大地協ニュースへのご感想・記事テーマリクエストなど

上記担当窓口まで皆様のお声を頂けましたら幸いです。

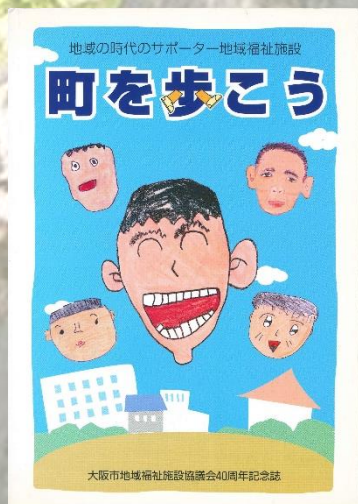
「町を歩こう」からはじめよう！ 新人職員のみなさん、気軽に大地協に参加しませんか

今から 30 年前に異業種から転職。学童保育「平和の子どもの家」の指導員として私の福祉施設でのキャリアが始まりました。学童保育研究会（現 地域の子ども研究会）に必然的に参加することになったのが大地協デビューでした。熱いメンバーばかりで、勤務が終わってからの集まりも少なくありませんでした。他施設の指導員と合同行事の企画をしたり、様々な事を話し合ったりする時間は大変でもありましたが充実した時間でした。「目指せけん玉日本一！」というビデオ（当時はビデオの時代でした）を観たことがきっかけで指導員仲間が勤務後に集まってけん玉の練習を繰り返したことも懐かしい思い出の一つ。「テレビゲームに負けるな！」を合言葉に、けん玉ブームを起こそうとしたのです。学童期の子どもたちに大切なものは何かを追求したい、何かせずにはいられないといった熱い想いがメンバー全員にありました。刺激し合える仲間がいたことがエネルギーになりました。

合同行事「けん玉大会」の開催。各施設でのけん玉記録を競い合う「けん玉ランキング」を毎月発行したり…。今でも各施設にけん玉活動は残っているはずです。

私のバイブルは大地協 40 周年記念誌「町を歩こう」です。大地協加盟施設には必ずあります。これは読んでほしい一冊です。

大地協の活動精神の根底には「セツルメント」という言葉があります。難しいですね、セツルメント。セツルの家は知っているけどセツルメントって何？そう思っている方もいることでしょう。「町を歩こう」を探して読んでみてください。大地協の歴史と共にセツルメントについての学びにつながります。そしてフレッシュな気持ちで町を歩きましょう。町探検のような気持ちで、何かを発見しようという気持ちを少し持って、いつもの道を歩いてみましょう。そしてささやかな発見や疑問を仲間に話してみましょ。それがセツルメントへの第一歩です。理論も大切ですがまず実践！誰にでも出来る実践が「町を歩こう」です。気軽に気楽に始めてみませんか？



社会福祉法人 しんもり福祉会

平和の子保育園 園長 谷川 勝敏

地域のお年寄り研究会の設立と初期の状況

《 お年寄り研究会参加施設 》

東三国デイサービスセンターなみはや・水仙の家・地域生活支援センター風の輪
ひまわりの郷・長居の里・いくとくⅡ・いくとく

90年代中盤以降、大地協各施設はそれぞれの地域の中で中核的な役割を担っていたこともあって大阪市より「在宅介護支援センター及び高齢者デイサービスセンター」の運営委託を受ける施設が増えてきました。大地協ではこれまで学童保育など、「子ども」関係の研究会が中心でした。そこで1997年に地域における高齢者のことを考える「地域のお年寄り研究会」を立ち上げることとなりました。大きな柱として『住み慣れた地域で人生の終末を』これを実現するためにはどのようなかわりやプログラムを考えていけば良いのか？を挙げてスタート！それぞれの地域によって高齢者の状況や、施設の設計などで対応が変わってくることを考え、研究会の場所を参加施設の持ち回りとして、施設見学、対応困難ケースの検討を中心として実施してきました。一方で、どうしてもデイサービスの中身が中心になってしまい在宅介護支援センターの役割や内容については十分な議論ができなくなってきました。そしてその後導入された介護保険制度の下で施設運営を進めていくうちに施設の独自性が発揮できなくなる、研究会に人が集まらなくなるなど研究会に対しての熱い思いが覚めていき残念ながら、研究会は自然消滅のような形となりました。



当時の
地域のお年寄り研究会の様子



元 愛染橋保育園 園長 小谷 啓二

お年寄り研究会の思い出

もう20年以上も前のことです。先輩に連れられ参加したことが初めてだと記憶しています。当時、いくつかのデイサービスの職員が集まり、決められたテーマのもと意見の交換をしたり、それぞれの施設が抱えている問題点を話し合ったりと内容は盛りだくさんでした。様々な意見が出そろった後に、小谷先生の締めのお言葉を聞くのが定番でした。お年寄り研究会の後は、必ずといっていいほど、飲み会があり、むしろそちらの方がメインではないかと思われるほどでした。そんな私もいつしか参加する機会も減っていき今に至る次第です。今回久しぶりに「お年寄り研究会」という言葉を聞き感慨深いものがありました。今後、お年寄り研究会が復活した際には、20年ぶりに参加したいと思っています。

ふれあい・交流の拠点「カフェテリアひまわり」



都島友の会 中田 純

お年寄り研究会から人とのつながり



高齢者デイサービスセンターいくとくⅡ 菖蒲湯温泉

月間行事 (※三密を避け、マスク着用、換気や加温等空気管理に注意して行っています。)

■菖蒲湯 (R5年5月1日～6日)
菖蒲湯温泉を楽しむ

年々職員の入れ替えも増えていき、研究会参加者の定着が難しくなり休止になってしまいましたが、今でもあの時のメンバーは頑張っているのだろうなと思っています。私にとってお年寄り研究会での活動、人と人との繋がりは今でも宝だと思っています。

2000年に介護保険制度導入が始まり、措置制度から保険制度と大きく変化する前後に研究会に参加し休止に至るまで関わって参りました。当初の「住み慣れた地域で人生の終末期くするために」を念頭に話し合っていた内容から介護保険についての話し合いが多くなり、制度に振り回されていたことを思い出します。しかし、そのバタバタした状況の中でも研究会に参加したメンバーは様々なことを思い、悩みながら、ざっくばらんに話をしていました。開催場所もいろいろな事業所で行い、研究会終了後の第2部(飲み会)でも地域を歩き、居酒屋を探し、楽しく愚痴を言ったりと盛り上がっていました。多くはデイサービスの職員が参加しており、職員数も少ないので責任感がある反面、愚痴も多かったなと記憶しています。

社会福祉法人 育徳園

障がい事業 事業部長 山村 肇

お年寄り研究会は思い出で終わるのか？

小谷先生は「水仙の家」のデイサービス所属でした。その後、保育所にも変わってもずっと参加していただいていた。この当時は、デイサービスの送迎車が家の前で停まるのが家族にとって「恥ずかしい」「デイサービスに預けるなんて」という時代でもあり、家から離れたところに車を停めてお迎えに行くということもありました。デイサービスの日はおしゃれして来られる方々も多くゆったりと過ごしていただくのがデイサービスでした。そんな中ではありましたが、高齢部門は出来立て、というところが多く悩みもたくさんあり「お年寄り研究会」の存在はありがたかったの一言です。

制度で縛られる介護保険ですが、こんな話もありました。「郊外散策」いわゆる子どもでいえば遠足。お弁当を厨房で作ってもらい遠出したこともありましたが、これは介護保険にはないサービスであるとのことでその出かけた日は換算されないために返金しなければならず、「なんで!」と怒りでした。デイサービスは、食事、入浴、送迎だけをしていれば良い、ということになりかねません。そんなことをぐちゃぐちゃ吐き出す場所でもありました。

日本は、世界でもまれにみる少子高齢、今後さらなる支援者が多くなっていくことは間違いないでしょう。しかしそれならば「支援」ではなく家族も巻き込み伴走型での支援が必要となってきます。支援者が本人家族の力を奪っているという名古屋での研修会での話が印象的です。子ども研究会に追いつけ追いこせで続けてきましたが、追いつくことはできませんでした。お年寄り研究会をどうするのかは大地協として大きな課題です。

ひまわりの郷 職員の皆さん



育徳園 加藤 久美

想いを紡ぐ = 障がい児・者研究会での出会い =

私は現在、児童養護施設 聖家族の家において心理担当職員として勤めています。といっても、まだまだ心理臨床家として駆け出しの若輩者であり、自分の在り方について悩む日々です。そんな中、何かのご縁か久々に再会した知人に本研究会をご紹介いただき、参加させていただくことになりました。良き出会いに恵まれたと心より感じております。

研究会では一つのテーマに対して各々の立場・専門性から考えや思いを述べていくことになるのですが、非常に興味深い場であると感じています。というのも、研究会でのやり取りは様々な現場での“生の”話であり、現場の困り事や疑問の数々がその場で織りなされるわけです。つまり、答えのない悩みに対して、その場に集う者たちが想いを馳せ、一緒に考える場を持つことになります。明確な何かがその場で得られるかどうかは別として、自分の抱える悩みに対して誰かが耳を傾け、共に悩んでくれる場があるということは、現場で働く者にとって心強い限りです。その意味において、研究会における出会いは自らの肩書きに囚われない、地域福祉という大きな括りの中での仲間との出会いと言えるのかもしれません。

少し話が変わりますが、私の臨床テーマの一つとして“共生（ともいき）”というものがあります。浄土真宗の考え方で「いまあるすべてのいのちの連綿とした繋がりを大切に」とする考え方であり、過去、現在、未来のすべてが繋がっているとするものです。私は仏教徒ではないので、詳細なことについて説明することはできませんが、他者（あるいは自己）との出会いに関して言うならば、この共生という考え方が当てはまっていると感じています。研究会での出会いは、時間で言うならば一時的限定的なものかもしれませんが、共生の考え方に基づけば、その人がその場に至る、あるいはその場から今後につながる想いとの出会いとして考えることもできます。一人ひとりが想いを胸に集い、その想いを今、ここ（研究会）で紡ぐ、そのような素晴らしい研究会にこれからも一人の仲間として携わっていきたいと思っています。



社会福祉法人 聖家族の家 横山 シオン

笑顔と活力あふれる大地協バザーに

毎年、学童（つくし会）の子たちと大地協のびわ湖セツルの家で貴重な自然体験を体験させていただいたり、ドッジボール大会や卓球大会などいろいろな催しへ参加させていただいており、何かと大地協にはお世話になっております。

このような大地協の催しでは多くの関係者が子ども達の為に労を惜しまず活動してくださっている姿に感謝しつつ私自身も活力をもらう思いです。また、大地協では児童福祉、障がい者施設、高齢者施設など様々な視点からの社会福祉施設としての在り方や現場から見える課題などを共有できる場でもあり、気づかずに狭まった私の視界を広げる貴重なお話や学びをたくさんいただいております。

阿さひ保育園 70 周年に向けて設立時など過去の資料整理をしている中で当時の運動会のプログラムにスポンサーとして地元商店街の名前が入っていたり、着物を発表会の衣装としてご寄附していただいたりと記録の中に実に様々な方のご協力やご厚意により保育園が設立され、支えられてきていたのだと改めて感じさせられることがありました。

大地協の活動を通して時代と共に形は変わっても現在も施設職員の方や地域の方など多くの人のご協力やご厚意があって活動が成り立っている事を実感しています。

本年は大地協で恒例のバザーを 11 月 30 日（土）阿倍野区/阿さひ保育園近隣の『ふれあい西公園のグラウンド』をお借りして開催する予定です。大地協に参加する私たちを含め地域コミュニティの交流の場として参加者とスタッフ共に笑顔と活力のある催しにしたいと思っています。是非皆様のお力をお貸しください。よろしくお願いします。



今年度 大地協バザー会場／ふれあい西公園



昨年度 大地協バザー（やまと保育園）の様子

社会福祉法人 清栄会
阿さひ保育園 青地 祐史